

令和6年9月30日(月)付

重大事態に関する報告書に対する保護者の所見

令和7年2月12日

保護者

松本市いじめ問題対策委員会による報告書について、保護者としての所見を述べます。報告書において、調査員各位の取り組みにより、学校長をはじめ教頭、担任の不適切な支援の事実の多くが解明されたことについて、深く感謝申し上げます。

しかしながら、調査委員会の調査の制約等の理由から、十分な校正が実施できていないことも事実です。しかし、すでにこの重大事態が発生してから2年近くが経過しています。当方もこれ以上の調査報告に時間をかけることは望んでいない為、再調査は希望していません。

ただし、この調査報告書に記載されている内容について、保護者として同意できない内容、事実と異なる内容も含まれています。

以下の点で 不十分な箇所を述べさせていただきます。

- 1) 当報告書には 保護者が納得していない事項、事実と異なる事項が含まれている。
- 2) 学校内で教師による不適切指導があった際の責任の追及が不十分であること。

1) に対して

学級担任との面談から

(イ)

*美術の授業が終わってから本人を呼び出したことについては、本人の母親が更衣男女一緒であることを訴えとあるが、訴えていない。

*美術の後に残ってもらった。「残れ」ということではないとあるが、本人は担任からはっきりと残るように言われている。

*学習室の話も聞いておらず、本人のクラスの生徒も学習室を使用して良い指示は担任からはなく、自分の席で男子が周りにいようと、その場での着替えを指示されていた。

(ウ)

*4月26日の支援会議の際、保護者からはなぜ本人の母親の名前が明らかになりと記載あるが、母親の名前ではなく、なぜ本人の名前を出したのかと質問している。

オ 養護教諭との面談から

(ウ) 本人が不登校になってからの校内支援会議には担任も入れず、養護教諭も入れなかったとあるが、校長・自立支援の教諭からは、養護教諭は支援会議に毎回出席していると

聞いており、報告書にも毎回出席者として名前が記載されていた。

カ 校長との面談から

(ウ) の内容について

*校長は口ばかりで何一つ行動を起こすことはなかった。学校は対応をしたという言い方だが、こちらがお願いをしてきても何も対応してもらえず、自殺未遂をしたという電話の校長からの折り返しが「担任が■■■■の火曜日に■■■■に来ませんか。教頭とも会わないように誰かが見張っています。」と子供を心配する言葉は一つもなかった。ここに書かれているような丁寧な対応も提案もされていない。体調が思わしくなかったのではない。自ら命を絶とうとしていた子に、■■■■に来て欲しいという提案がおかしい。何月何日にという要望を出したことは一度もない。

*保護者からは納得できないということでお叱りをいただきとあるが、なぜ納得できないと言ったのか全く理解されなかった。YouTube を作る、料理など全く子供の状態を理解していない案ばかりだった。

*■■■■公民館での学習の充実させることが一番というところで提案とあるが、一度も提案の事実はない。精神的な安定を図る提案の記載もあるが、提案された事実は一切ない。具体的な提案は最後までなかった。

キ 教頭との 面談についてより

(ア) の内容について

*担任との顔合わせの機会を持つことを本人と保護者へ伝えたとあるが、担任と顔合わせとは言われていない。担任には会わせられない。学年の先生との顔合わせ。それで本人の不安が和らぐならと言われた。

(イ) の内容について

*「男の先生はダメだ。」ということが出されたということだが、男の先生はダメとは一切言っていない。

(ウ) の内容について

*私がたまたま通りかかったとあるが、たまたま通りかかっていない。養護教諭が職員玄関で対応。教頭を呼びに行き、教頭が玄関に来た。担任の先生だよと、ごくごく稀に紹介することがごくごく稀にあると記載があるが、会わせられない。2 学年の先生に会ってもらおうと言われ、当日約束の時間に中学校へ行っている。

*関係が深まっていなかったとあるが、3 月に会って話をして、16 時に来てほしいと教頭本人が言ったにも関わらず、思い出せない理由を関係性のせいに行っている事が、管理職としても無責任さを大いに感じざるを得ない。

(エ) の内容について

*本人の支援会議で聞いた内容は～養護教諭には伝えていなかったとあるが、教頭本人が養

護教論と共有すると言っていた。教頭はなぜ入学前に小学校へ呼ばれたのか、本人がどんな思いで自分の口で気持ちを伝えたのか全く理解されていない。例年の対応で良いなら、事前の支援会議をしていないのではないかと思います。

(カ) の内容について

*教頭本人が自ら情報を共有すると言った。保護者からもお願いをしてきた。ちょっと違ったではない。相変わらず何が悪かったのかが全く分かっていない。自殺を考えるまで追い込んでいるのに他人事で、最後まで本人への謝罪がない。

(キ) の内容について

*不登校の原因は更衣室ではない。このことも何度も学校（校長）へ伝えてきた。校長は共有していると毎回嘘を言っていた。

(ウ) の内容について

*間違えてしまったことが、この3年間で何度もあったとあるが、そのやり方を変えていなかったのは自分のことしか考えていないからではないか。自分が一番責任を取らなくて良い楽な方法でしか判断をしていない。どんな理由があろうと、子供を苦しめて良い理由にはならない。自分の不適切な対応が、今回のことの主な原因ということが全く分かっていない。

【今後望むこと】

当事者3名は、この調査を持っても反省を感じることができず、聞いていたことと全く違う調査内容が多くあります。校長は保護者に対し、教師全員に伝えている、伝えたと最後まで嘘を言い続け、教頭も事実と異なる内容が多く、担任も自分の言動で1人の生徒を苦しめていることの振り返りが全くできていません。3名に限ったことではありませんが、自分自身の発言に責任を持っていない。覚えていない、言い訳ばかりであり、自分が正しいと思い過ぎており、一番大切にしなければならない子供の気持ちを無視し、最後まで向き合ってもらえなかった事に対しては大変残念に思います。

学校の対応の遅さには承服できず、教育委員会へ相談してから対応が明らかに進み始めました。本人は当時大人への不信感が強くありましたが、教育長、教育監には心を少しずつ開き、面談に応じていました。学校が主体的に対応できないのであれば教育委員会が対応に関与することは有効であると感じました。

対応が学校によって違うということがあってはならず、広く多くの教育関係者にこの事例が共有され、二度と教員が原因で悲しい思いをし、「死」を考えるとという事が繰り返されないことを強く望みます。